



# 卸売

## 業績予測レポート（5年）

5年以内の将来における業界の成長性/リスクを評価

XENO BRAIN

2021年10月17日 作成

卸売

業界定義	卸売は、下位業界に工作機械卸、医薬品・医薬部外品卸、商社、繊維・皮革製品卸、出版物卸、コンテンツ卸、窯業・土石製品卸、医療機器卸、エレクトロニクス製品卸、紙製品卸、重電機器卸、機械部品卸グループ、金属製品卸、産業機械卸、化学品卸、輸送機械卸、エネルギー卸、消費財・雑貨卸、食品・飲料卸、中古車卸グループ、機械部品卸、農林水産物卸、業務用品卸、建材・住設機器卸、天然資源卸を含む業界である
主要企業	三菱商事株式会社、伊藤忠商事株式会社、三井物産株式会社、丸紅株式会社、豊田通商株式会社、住友商事株式会社、三菱食品株式会社、アマゾンジャパン合同会社、株式会社スズケン、アルフレッサ株式会社、日鉄物産株式会社、株式会社メディセオ、株式会社日本アクセス、阪和興業株式会社、国分グループ本社株式会社、他
推定国内市場規模	1,097,625億円 (所属企業における、当業界主要商品の国内推定売上高を全社合計し算出)

本レポートが提供する評価結果の概要紹介

本業界の成長性に関する総合評価

B-

営業利益予測成長率（5年） -48.01%

数値は業界所属企業のうち売上高上位15社における中央値

解説

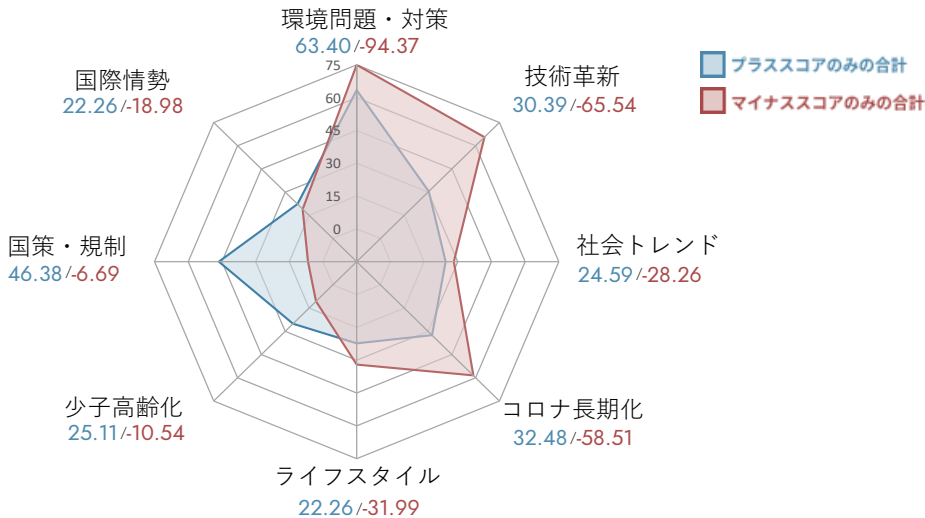
当業界（卸売）の5年後の営業利益は、直近5年間の平均と比較して、業界所属企業全体として-48.01%の減益と予測する。自動車軽量化需要増加による鋼材需要減少や脱石油進展による石油製品需要減少、排出量取引制度進展による石炭需要減少の影響が大きいと予測する。市場環境の変化をカテゴリー別に見ると、環境問題・対策による影響が大きいと予測する。当業界の企業については、伊藤忠商事株式会社、三井物産株式会社、丸紅株式会社が比較的高い成長性と予測され、三菱商事株式会社、住友商事株式会社はともに低い成長性と予測する。

本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービス（上位5個）

今後成長/衰退する製品・サービス	業績への影響	主な影響シナリオ
鋼材	-38.36%	自動車軽量化需要増加→鋼材需要減少
石油製品	-11.71%	脱石油進展→石油製品需要減少
石炭	-11.63%	排出量取引制度進展→石炭需要減少
新型コロナウイルスワクチン配送	5.76%	新型コロナウイルスワクチン接種需要増加→新型コロナウイルスワクチン需要増加→新型コロナウイルスワクチン配送需要増加
医療用医薬品	4.70%	後期高齢者人口増加（日本）→重度医療患者数増加→医療用医薬品需要増加

⇒ 詳細は4ページへ

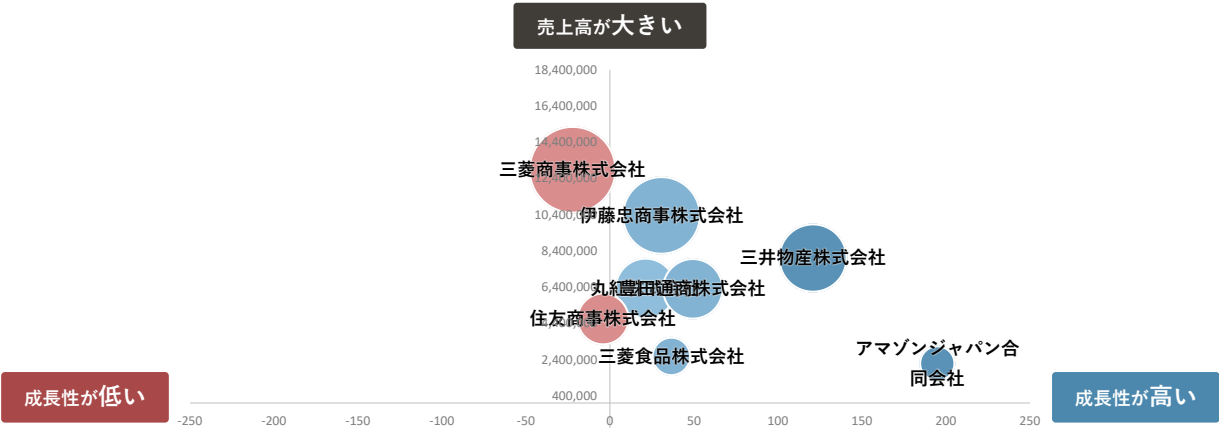
本業界に今後生じる重要な市場環境の変化



⇒ 詳細は7ページへ

業界プレイヤーのポジショニング

卸売（全 435社）



⇒ 詳細は12ページへ



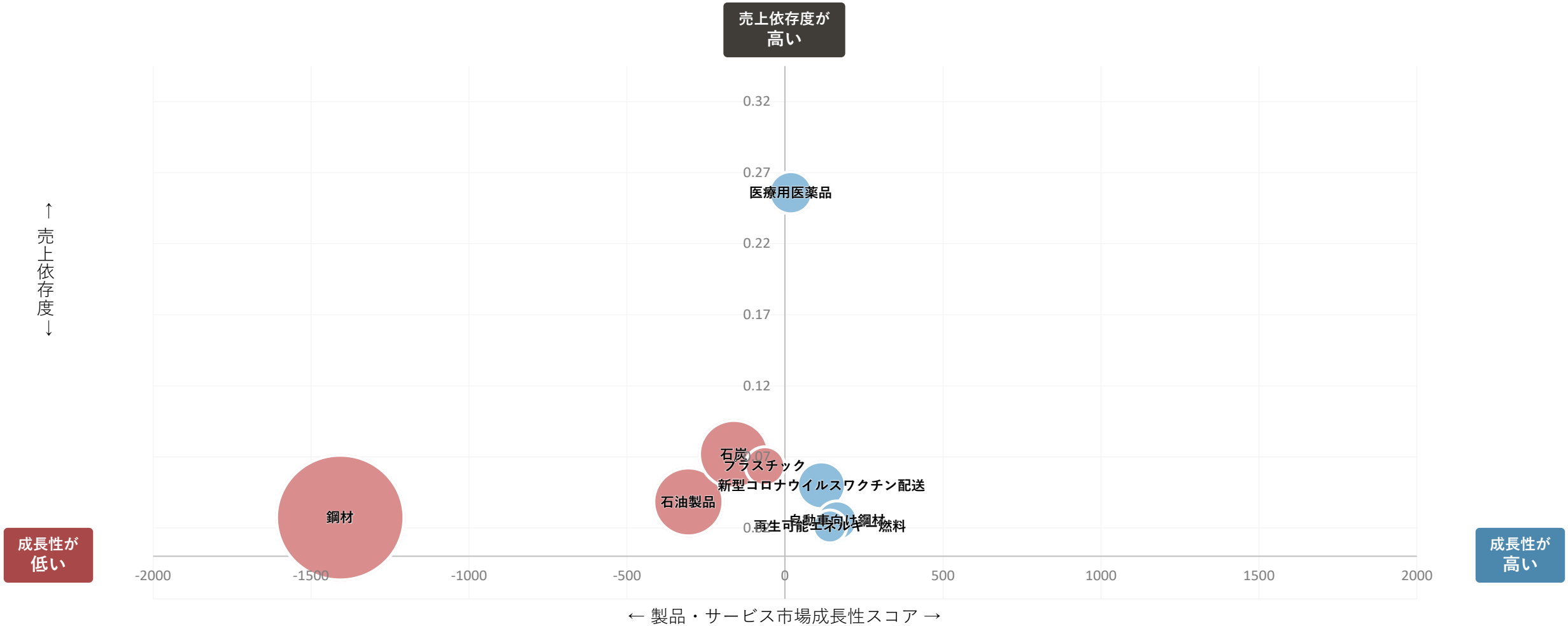
# 卸売

本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）

業界関連製品・サービスの成長性分布

解説

今後5年間で当業界（卸売）の業績に最も影響のある商品は鋼材であり、市場が縮小し業績へマイナスの影響があると予測する。その他の業績へマイナスの影響がある商品は石油製品や石炭と予測する。一方市場が拡大し、業績へプラスの影響がある商品には新型コロナウイルスワクチン配送や医療用医薬品、自動車向け鋼材があると予測する。



※縦軸：開示資料の文章や企業HP、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標である売上依存度として表示しております。  
※横軸：製品・サービス市場成長性スコアは、その製品・サービス市場が市場環境の変化により、今後5年程度でどのように成長/衰退するかを表したxenoBrain独自のスコアです。  
※円の大きさ：その製品・サービスが将来当業界にもたらすと予測する業績へのインパクト（売上依存度×製品・サービス市場成長性スコア）を示します。

本業界に関連する今後成長/衰退する製品・サービスについてのシナリオ分析

今後成長/衰退する製品・サービス	製品・サービス別売上依存度	業績インパクト（営業利益成長率）	主要シナリオ毎の業績インパクト（営業利益成長率）			影響経路	主な影響企業
鋼材	0.027	-38.36%	-20.09%			自動車軽量化需要増加→鋼材需要減少	阪和興業、日鉄物産、住友商事
			-4.02%			セルロースナノファイバー利用拡大→鋼材需要減少	阪和興業、日鉄物産、住友商事
			-4.02%			排出量取引制度進展→CO2排出量削減→自動車軽量化需要増加→鋼材需要減少	阪和興業、日鉄物産、住友商事
石油製品	0.038	-11.71%	-3.83%			脱石油進展→石油製品需要減少	伊藤忠商事、阪和興業、三菱商事
			-2.41%			排出量取引制度進展→石油製品需要減少	三井物産、丸紅、阪和興業
			-0.77%			生産年齢人口減少（日本）→石油製品需要減少	三井物産、丸紅、阪和興業
石炭	0.072	-11.63%	-7.53%			排出量取引制度進展→石炭需要減少	豊田通商、双日、住友商事
			-5.77%			火力発電需要減少（日・米・欧・中）→石炭需要減少	豊田通商、双日、住友商事
			-4.92%			自動車軽量化需要増加→鋼材需要減少→石炭需要減少	豊田通商、双日、住友商事
新型コロナウイルスワクチン配送	0.050	5.76%	4.50%			新型コロナウイルスワクチン接種需要増加→新型コロナウイルスワクチン需要増加→新型コロナウイルスワクチン配送需要増加	スズケン、メディセオ、アルフレッサ
			0.90%			後期高齢者人口増加（日本）→重度医療患者数増加→新型コロナウイルスワクチン需要増加→新型コロナウイルスワクチン配送需要増加	スズケン、メディセオ、アルフレッサ
			0.18%			岸田首相就任→新型コロナウイルスワクチン開発支援実施→新型コロナウイルスワクチン需要増加→新型コロナウイルスワクチン配送需要増加	スズケン、メディセオ、アルフレッサ
医療用医薬品	0.256	4.70%	4.55%			後期高齢者人口増加（日本）→重度医療患者数増加→医療用医薬品需要増加	住友商事、アルフレッサ、メディセオ
			-1.14%			スイッチOTC化進展→医療用医薬品需要減少	豊田通商、スズケン、三菱商事
			0.91%			岸田首相就任→経済安全保障推進法策定→医療用医薬品需要増加	住友商事、アルフレッサ、メディセオ
自動車向け鋼材	0.025	4.13%	0.95%			燃料電池自動車需要増加→燃料電池自動車用部品需要増加→自動車向け鋼材需要増加	阪和興業、豊田通商、三菱商事
			0.95%			燃料電池自動車需要増加→自動車組立需要増加→自動車用金型需要増加→自動車向け鋼材需要増加	阪和興業、豊田通商、三菱商事
			0.95%			電気自動車需要増加→自動車組立需要増加→自動車用金型需要増加→自動車向け鋼材需要増加	阪和興業、豊田通商、三菱商事
プラスチック	0.063	-4.03%	0.64%			自動車軽量化需要増加→プラスチック需要増加	豊田通商、双日、伊藤忠商事
			-0.64%			アパレルメーカーSDGs進展→プラスチック需要減少	豊田通商、双日、伊藤忠商事
			-0.64%			セルロースナノファイバー利用拡大→プラスチック需要減少	豊田通商、双日、伊藤忠商事
再生可能エネルギー燃料	0.021	2.98%	1.08%			排出量取引制度進展→CO2排出量削減→再生可能エネルギー燃料需要増加	双日、伊藤忠商事、三井物産
			-0.42%			OPEC協調減産協議難航→原油価格大幅下落→重油価格下落→再生可能エネルギー燃料需要減少	丸紅、三菱商事、三井物産
			0.22%			CO2削減需要増加→再生可能エネルギー燃料需要増加	双日、伊藤忠商事、三井物産

※当業界の製品・サービスポートフォリオのうち、今後利益を成長/減少させる製品・サービスをインパクトの大きさ順上位8個（8個ない場合はすべて）について表示しています。  
※主要シナリオ毎の業績インパクトと影響経路は、各製品・サービスの上位3つのみ表示しております。





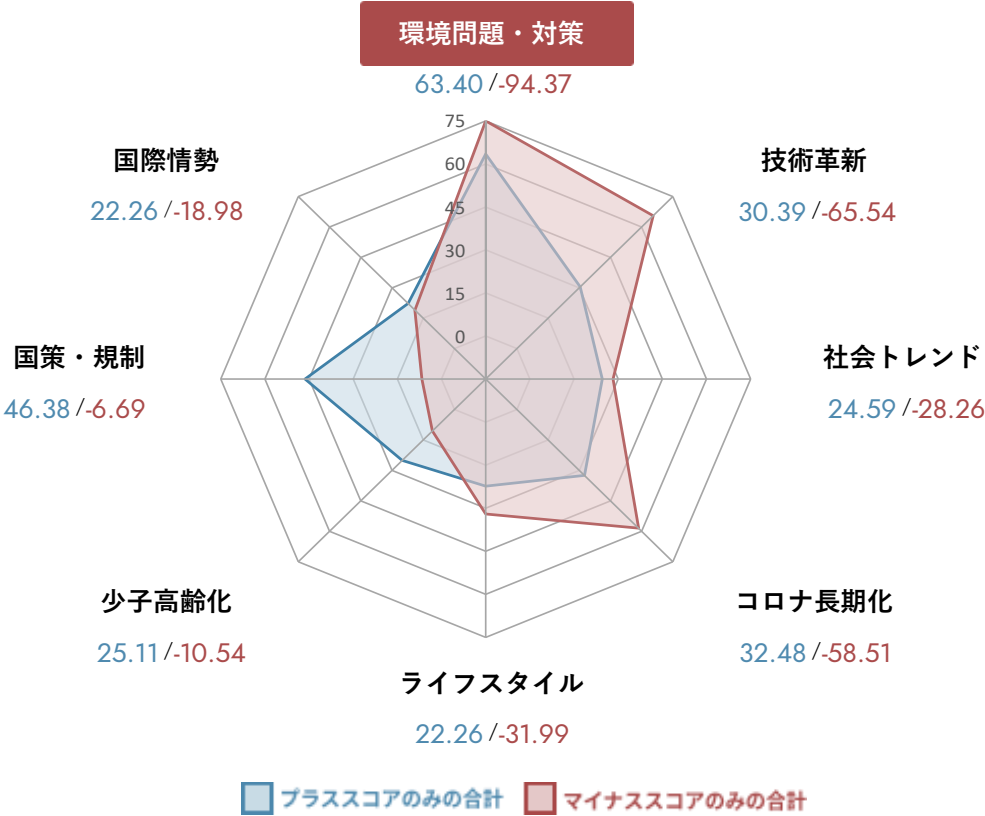
# 卸売

今後生じる重要な市場環境の変化

カテゴリー別 レーダーチャート

解説

今後5年間で卸売に影響する市場環境の変化を8つのカテゴリーに分類すると、増益、減益共に環境問題・対策の影響が大きいと予測する。増益の具体的な要因は、燃料電池自動車需要増加や電気自動車需要増加、SOx規制対応本格化と予測する。具体的な減益要因は、排出量取引制度進展や脱石油進展、火力発電需要減少（日・米・欧・中）と予測する。



環境問題・対策

営業利益にポジティブな影響が大きい中長期シナリオトップ5

中長期シナリオ	スコア	影響経路（複数ある場合は最も影響が大きい経路）
燃料電池自動車需要増加	12.19%	燃料電池自動車需要増加→タイヤ需要増加→天然ゴム需要増加
電気自動車需要増加	8.81%	電気自動車需要増加→タイヤ需要増加→天然ゴム需要増加
SOx規制対応本格化	3.93%	SOx規制対応本格化→LNG需要増加
建設業界SDGs進展	2.04%	建設業界SDGs進展→災害復旧工事需要増加→鋼材需要増加
二輪車メーカーSDGs進展	1.75%	二輪車メーカーSDGs進展→自転車需要増加→自転車フレーム需要増加→鋼材需要増加

環境問題・対策

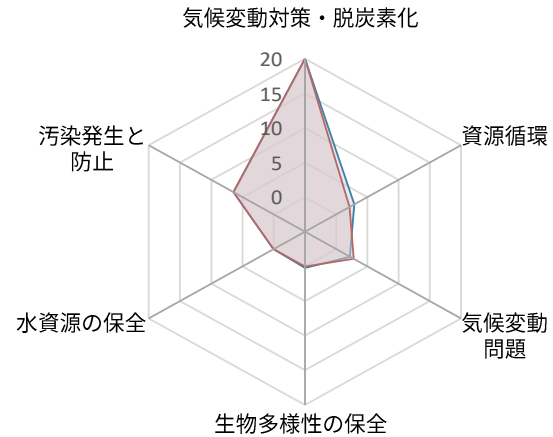
営業利益にネガティブな影響が大きい中長期シナリオトップ5

中長期シナリオ	スコア	影響経路（複数ある場合は最も影響が大きい経路）
排出量取引制度進展	-16.35%	排出量取引制度進展→石炭需要減少
脱石油進展	-9.15%	脱石油進展→石油製品需要減少
火力発電需要減少（日・米・欧・中）	-7.13%	火力発電需要減少（日・米・欧・中）→石炭需要減少
セルロースナノファイバー利用拡大	-6.36%	セルロースナノファイバー利用拡大→鋼材需要減少
脱炭素化進展	-5.30%	脱炭素化進展→石炭需要減少

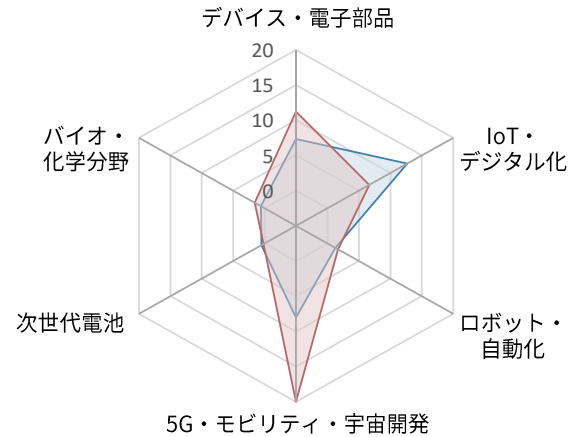


前ページの各カテゴリーについて、さらに詳細に分類したサブカテゴリー別に市場環境の変化からの業績影響を予測する。

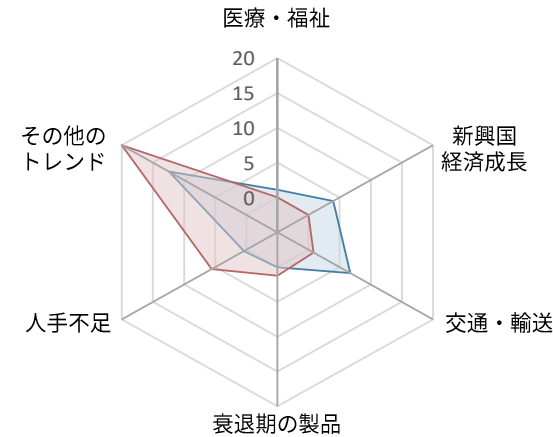
## 環境問題・対策



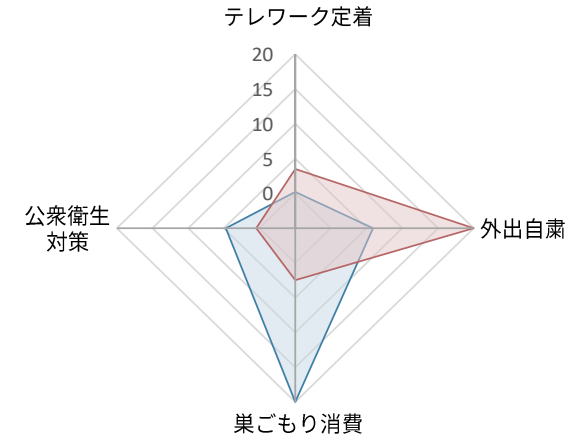
## 技術革新



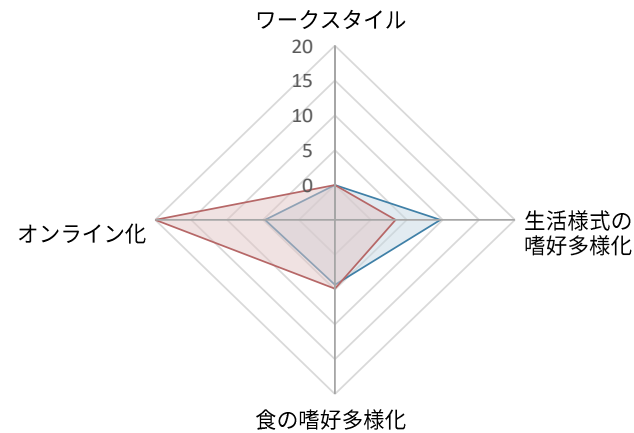
## 社会トレンド



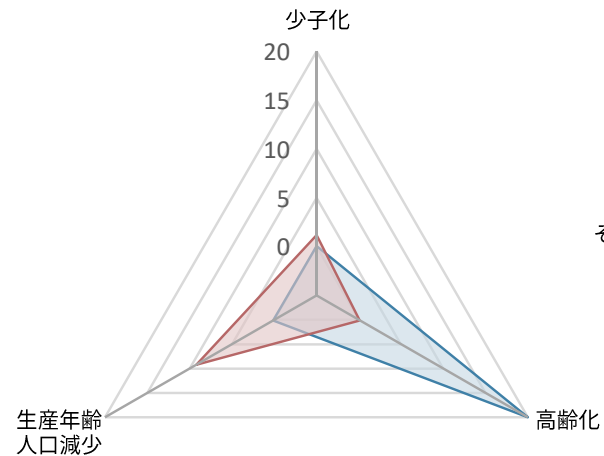
## コロナ長期化



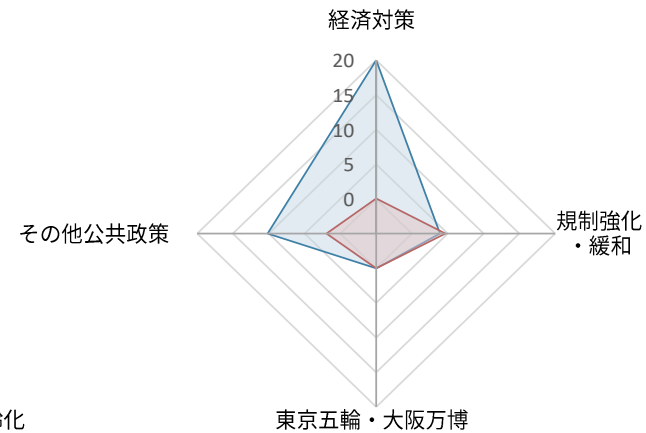
## ライフスタイル



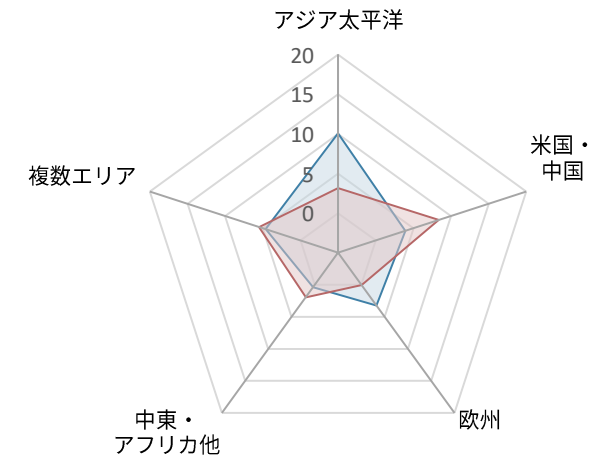
## 少子高齢化



## 国策・規制



## 国際情勢



サブカテゴリー別総合評価 主要シナリオ分析

表の見方について

カテゴリー	カテゴリー毎の営業利益予測成長率	サブカテゴリー	サブカテゴリー毎の営業利益予測成長率		主要影響経路
環境問題・対策	-30.97%	気候変動対策・脱炭素化	-31.32%		排出量取引制度進展(-16.35)、燃料電池自動車需要増加(12.19)、脱石油進展(-9.15)、電気自動車需要増加(8.81)、火力発電需要減少(日・米・欧・中)(-7.13)
		汚染発生と防止	-0.08%		SOx規制対応本格化(3.93)、POPs条約推進(-1.75)、VOC(揮発性有機化合物)対策進展(-1.66)、光化学スモッグ対策進展(-0.52)、PM2.5対策進展(0.39)
		水資源の保全	0.01%		砂漠化対策進展(0.01)、安全な水確保(-0.01)、水処理需要増加(0)
		気候変動問題	-0.59%		平均気温4度上昇シナリオ(-2.1)、火力発電需要増加(印・露・インドネシア・ブラジル・南ア)(1.03)、平均気温2度上昇シナリオ(0.48)
		生物多様性の保全	0.23%		森林環境税導入(0.23)
		資源循環	0.78%		プラスチック資源循環促進法案成立(1)、ペーパーレス化進行(-0.74)、環境保全需要増加(0.43)、サーキュラーエコノミー進展(0.08)、3R進展(0.02)
国際情勢	3.28%	アジア太平洋	6.91%		日本経済回復(4.12)、RCEP発効(2.69)、TPP発効(1.97)、香港国家安全維持法施行(-1.71)、ミャンマー国軍クーデター発生(-0.44)
		欧州	3.23%		日欧EPA発効(2.73)、日英EPA発効(0.31)、欧州経済回復(0.18)
		中東・アフリカ他	-1.57%		地政学リスク上昇(-1.42)、OPEC協調減産協議難航(-0.16)
		米国・中国	-4.43%		USMCA発効(-4.06)、グローバルサプライチェーンリスク上昇(-3.1)、日米貿易協定発効(0.74)、中国経済回復(0.73)、米国経済回復(0.5)
		複数エリア	-0.86%		日本円相場上昇(-3.74)、外国人入国制限緩和(2.78)、防衛関係費予算増加(0.1)、パリ協定発効(-0.1)、海上貨物輸送供給不足(0.09)
国策・規制	39.70%	規制強化・緩和	-0.78%		自動ブレーキ義務化(-3.46)、電力自由化(1.6)、スイッチOTC化進展(-1.14)、マンション建替え円滑化法改正(0.9)、企業の農地取得進展(0.59)
		経済対策	28.17%		マイナス金利継続(17.73)、岸田首相就任(7.54)、GoToトラベルキャンペーン実施(0.9)、GoToEatキャンペーン実施(0.87)、GoTo商店街キャンペーン実施(0.86)
		国際イベント	4.09%		大阪・関西万博開催(4.02)、北京冬季オリンピック開催(0.07)
		その他公共政策	8.22%		リニア新幹線敷設(5.36)、新婚補助金増加(2.68)、終電時刻繰り上げ実施(-0.85)、無電柱化推進(0.65)、ギャンブル依存症対策基本法施行(-0.64)
少子高齢化	14.57%	少子化	-1.15%		少子化(日本)(-1.2)、生産年齢人口増加(インドネシア)(0.04)、生産年齢人口増加(インド)(0.01)
		生産年齢人口減少	-9.12%		生産年齢人口減少(日本)(-9.14)、生産年齢人口増加(米国)(0.09)、生産年齢人口減少(欧州)(-0.03)、生産年齢人口減少(中国)(-0.03)、生産年齢人口増加(ブラジル)(0)
		高齢化	24.83%		高齢者人口増加(日本)(14.84)、後期高齢者人口増加(日本)(9.07)、後期高齢者人口増加(米国)(0.28)、後期高齢者人口増加(中国)(0.19)、後期高齢者人口増加(ブラジル)(0.16)

サブカテゴリー別総合評価 主要シナリオ分析

表の見方について

カテゴリー	カテゴリー毎の営業利益予測成長率	サブカテゴリー	サブカテゴリー毎の営業利益予測成長率		主要影響経路
ライフスタイル	-9.73%	ワークスタイルの変化	2.39%		女性社会進出促進(1.09)、副業従事者数増加(0.66)、共働き世帯増加(0.55)、働き方改革推進(0.06)、クラウドソーシング需要増加(0.03)
		オンライン化	-17.79%		EC利用拡大(-11.33)、スーパーアプリ利用拡大(-2.45)、インターネット利用者数増加(-2.3)、ネットスーパー利用拡大(-2.21)、動画ストリーミングサービス需要増加(0.18)
		食の嗜好多様化	-0.57%		若年層のアルコール離れ進行(-1.58)、ゴーストキッチン需要増加(-0.81)、ケトジェニック・ダイエット需要増加(0.51)、グルテンフリー需要増加(-0.46)、自炊需要増加(-0.44)
		生活様式の嗜好多様化	6.23%		二地域居住進展(3.77)、都市化進展(2.72)、晩婚化進行(-2.11)、地方移住人数増加(1.83)、アミューズメント施設利用者数減少(-0.65)
コロナ長期化	-26.03%	テレワーク定着	-3.27%		テレワーク需要増加(-3.27)
		公衆衛生対策	4.30%		新型コロナウイルスワクチン接種需要増加(4.5)、感染症対策需要増加(-0.28)、マスク着用習慣化(0.08)
		巣ごもり消費	19.15%		巣ごもり消費需要増加(13.03)、内食需要増加(6.12)
		外出自粛	-46.20%		インバウンド需要減少(-22.03)、航空機需要減少(-9.87)、外食需要減少(-5.18)、国内旅行需要減少(-4.35)、国内出張需要減少(-2.54)
社会トレンド	-3.67%	医療・福祉	1.07%		生活習慣病患者数増加(0.89)、がん患者数増加(0.12)、アトピー性皮膚炎患者数増加(0.03)、社会保障費金額増加(0.02)、未病対策需要増加(0.01)
		交通・輸送	5.90%		物流センター需要増加(4.04)、国際航空貨物輸送需要増加(2.48)、鉄道貨物輸送需要減少(-0.52)、タクシー利用需要減少(-0.27)、コールドチェーン需要増加(0.08)
		衰退期の製品	-1.20%		テレビ視聴者数減少(-0.46)、陶磁器需要減少(-0.33)、衛星通信需要減少(-0.16)、伝統工芸品需要減少(-0.12)、蛍光灯需要減少(-0.08)
		新興国経済成長	3.95%		経済成長率上昇(1.47)、土木需要増加(1.12)、個人所得世帯当たり金額増加(0.92)、都市開発需要増加(0.44)
		人手不足	-5.18%		建設業界人手不足(-4.11)、企業人手不足(-1.24)、農家人手不足(0.05)、製造業人手不足(0.02)、ビルメンテナンス業界人手不足(0.02)
		その他トレンド	-8.20%		住宅市場競争激化(-12.25)、単身世帯数増加(3.62)、若年層の車離れ進行(-3.18)、4K放送需要増加(0.94)、鋼材需要増加(0.82)
技術革新	-35.15%	デバイス・電子部品	-3.88%		スマートフォン利用拡大(-2.85)、スマートフォン需要増加(2.71)、電気自動車市場競争激化(-1.67)、半導体市場競争激化(-1.63)、医療機器市場競争激化(-0.31)
		IoT・デジタル化	6.06%		次世代型リアル店舗需要増加(-2.43)、IoT市場拡大(2.39)、ビッグデータ解析需要増加(1.97)、スマート農業需要増加(0.67)、スマート物流需要増加(-0.55)
		5G・モビリティ・宇宙開発	-36.23%		自動車軽量化需要増加(-25.07)、レベル4自動運転利用拡大(レベル3以前発生シナリオ除く)(-5.07)、バス高速輸送システム利用拡大(-3.07)、自動運転需要増加(-2.77)、コネクテッドカー利用拡大(-0.65)
		ロボット・自動化	-0.46%		産業用ロボット市場競争激化(-0.83)、宅配ロボット需要増加(-0.8)、ロボット需要増加(0.53)、工場自動化投資拡大(0.31)、自動倉庫需要増加(0.15)
		バイオ・化学分野	-0.96%		バイオマス発電需要増加(-1.15)、人工肉需要増加(0.11)、バイオプラスチック需要増加(0.04)、生分解性プラスチック需要増加(0.04)、炭素繊維需要増加(0.01)
		次世代電池	0.32%		全固体電池需要増加(0.4)、太陽電池市場競争激化(-0.18)、リチウムイオン蓄電池利用拡大(0.05)、燃料電池需要増加(0.02)、蓄電池需要増加(0.02)
総合評価			-48.01%		

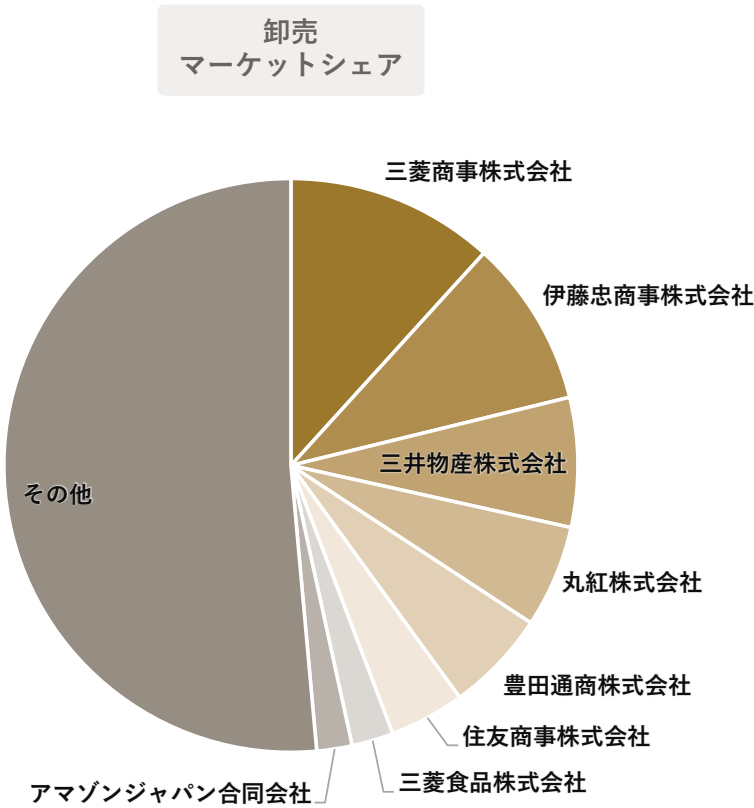


# 卸売

## 業界プレイヤーのポジショニング

卸売

当業界の国内市場の主要プレイヤーには三菱商事株式会社や伊藤忠商事株式会社、三井物産株式会社等がある。



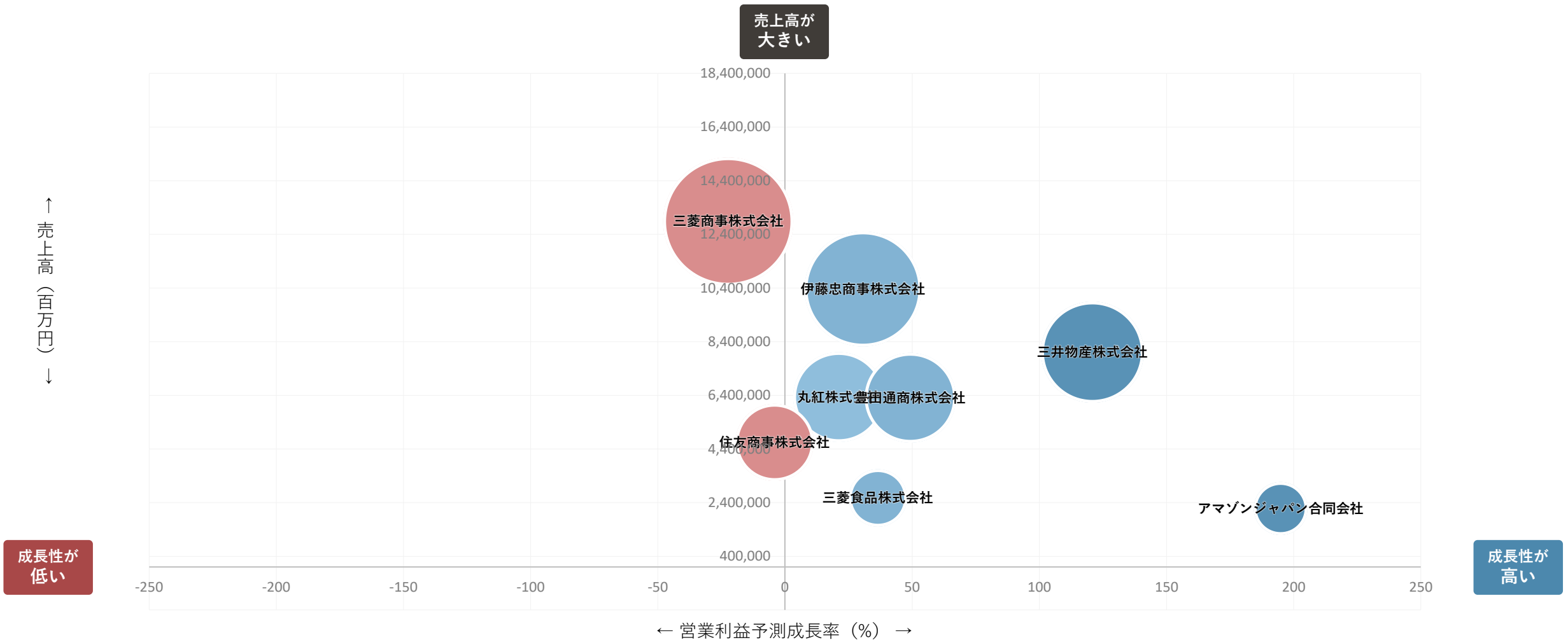
マーケットシェア順位	卸売業界 国内マーケットシェア 上位企業8社	A ÷ 業界全企業におけるAの合計 ×100 (%)	A
		マーケットシェア (推定)	売上高 (百万円) (※)
1	三菱商事株式会社	11.74%	12,884,521
2	伊藤忠商事株式会社	9.44%	10,362,628
3	三井物産株式会社	7.30%	8,010,235
4	丸紅株式会社	5.77%	6,332,414
5	豊田通商株式会社	5.75%	6,309,303
6	住友商事株式会社	4.23%	4,645,059
7	三菱食品株式会社	2.35%	2,577,625
8	アマゾンジャパン合同会社	1.99%	*****
	その他	51.43%	-
	合計	100.00%	-

※国内市場のプレイヤーは、xenoBrain格納日本企業約40万社を母集団として抽出しています。  
※上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。  
※\*\*\*\*\* 未上場企業の売上高はダウンロードが制限される項目のため本レポート上では表示していません。xenoBrain画面上ではご確認いただけます。

営業利益予測成長率分布

解説

卸売業界では、マーケットシェア上位8社のうち、6社が成長すると予測され、2社が衰退すると予測する。



※マーケットシェアの大きい上位8社（8社に満たない場合は業界の全ての企業）を表示しています。  
※縦軸の売上高は、上場企業で連結財務諸表を開示している企業は連結売上高、それ以外の企業はすべて単体の売上高を表示しています。  
※横軸の営業利益成長率は、各企業の概ね5年程度の成長性を営業利益成長率で換算した値を表します。  
※円の大きさは、各企業の国内マーケットシェアの大きさを表します。



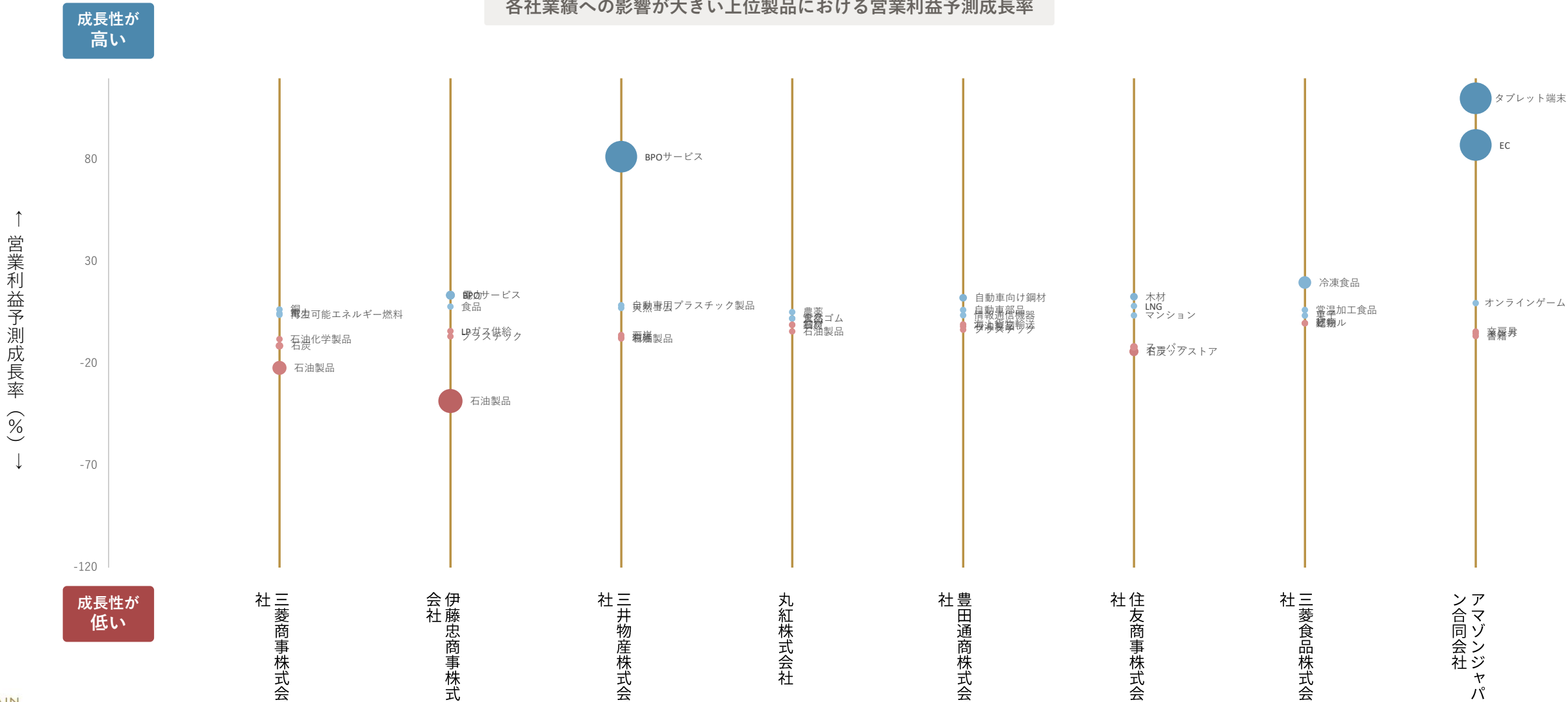
主要製品以外の製品・サービスでの競合比較

表の見方について

解説

マーケットシェア上位8社について、各企業の主要商品の営業利益予測成長率を表示しています。

各社業績への影響が大きい上位製品における営業利益予測成長率





# 当レポート及び各ページの見方について

# 当レポートについての説明

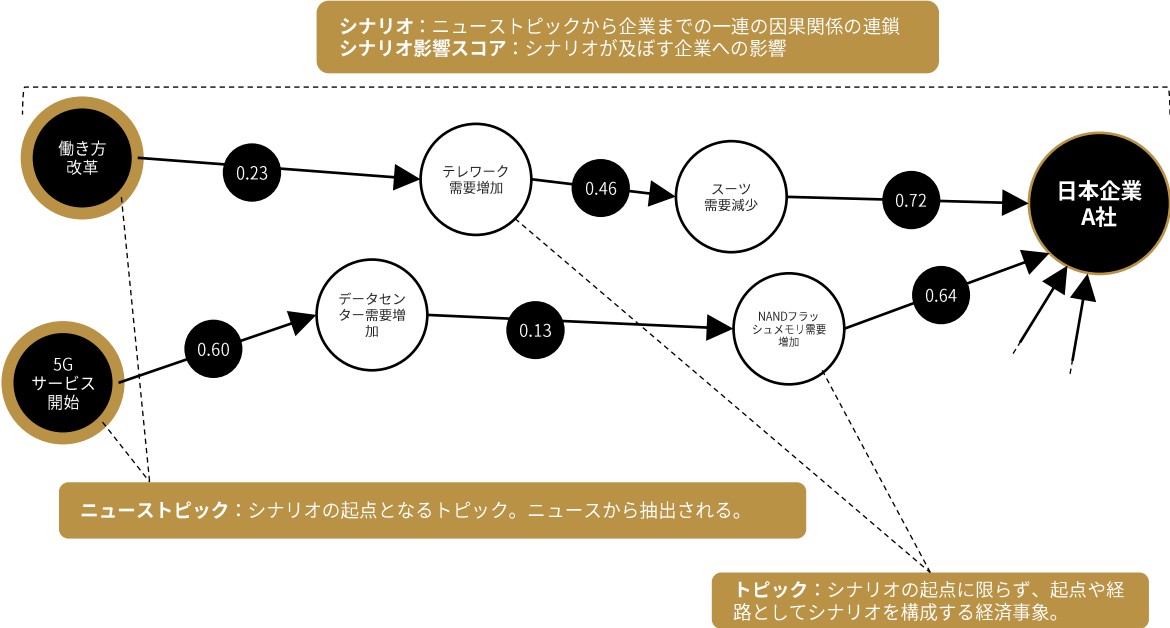
## 経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』の予測プロセス概要

### 当レポートについて

当レポートは経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』上で解析、計算された結果を用いて、様々な角度から当レポート対象企業を評価し、結果をまとめたレポートです。分析レポート対象企業は、国内未上場企業を含む約40万社になります。経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』では、一日3,000本のニュースデータ、国内全上場企業の開示資料、帝国データバンク社の信用調査レポートのデータ40万社分、また数万本の統計データを、ディープラーニングを含むAI技術を用いた独自のエンジンを基に解析し、様々な種類の経済予測結果を提供しています。

### 『xenoBrain』で行っている予測のコンセプト図及び用語の説明

これらの経済予測では、経済事象間に存在する因果関係を抽出して、シナリオとして連結し、そのシナリオの影響を集計し、予測を行っています。



## 当レポートで使用しているトピック及びシナリオ

xenodata lab.社のアナリストが、xenoBrain上に存在する数万を超えるシナリオの中から、中長期的（概ね5年程度）に影響し、かつ、影響が大きいと推測されるシナリオの起点（中長期シナリオ）を選定し各企業への影響を算出しております。利用したニューストピックやシナリオの概要は以下になります。

本レポート集計対象総シナリオ数 182,622,115 個

中長期シナリオ数	4,995 個	集計対象エリア数	9 エリア
カテゴリ別		集計対象エリア	
環境問題・対策		日本 / 米国 / 欧州 / 中国 / インド / ブラジル / インドネシア / ロシア / 南アフリカ	
国際情勢			
国策・規制			
少子高齢化			
ライフスタイル			
コロナ長期化			
社会トレンド			
技術革新			

当レポートについての説明

業界の業績予測（5年以内）とは

業界ごとの業績予測（5年以内）について

当レポートの業界ごとの業績予測（5年以内）とは、業界所属企業が5年程度の将来の中で、業績がどのように変化するかを予測し、その変化度合いをスコアで評価、そのスコアに基づき、10段階のレーティング（右表）により最終的な総合評価結果を付す、xenoBrain独自の予測結果です。

業界ごとの業績予測（企業総合スコア）の算出方法について

業界ごとの業績予測（5年以内）は、業界主要製品・サービスの国内マーケットシェア上位15社（所属企業が15社未満であれば全社）について、中長期的に影響すると推定されたシナリオの中からレポート対象企業に影響するシナリオを特定し、各シナリオにおけるシナリオ影響スコアを合計した数値を企業ごとに算出し、その中央値を取った値となります。

シナリオ影響スコアは以下の図のように、アナリストの調査、及び、開示資料中のセグメント構成比等を元データとして決定された係数を基に、シナリオ影響経路に存在する係数を掛け算することにより計算されます。



業界総合スコアの見方

レーティング	営業利益成長率	今後5年間における業界の成長/衰退可能性
S+	400%以上	<b>営業利益が400%以上増加する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）のほとんど全てが今後大幅に成長する市場に属しており、あらゆる業界関連製品（又はサービス）が高い成長率により収益貢献し、非常に大きな利益成長が期待される業界。
S	300%以上～400%未満	<b>営業利益が300%以上増加する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）の多くが今後大幅に成長する市場に属しており、多くの業界関連製品（又はサービス）が高い成長率により収益貢献し、非常に大きな利益成長が期待される業界。
A+	200%以上～300%未満	<b>営業利益が200%以上増加する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）が今後大幅に成長する市場に属しており、業界関連製品（又はサービス）の高い成長率により、大きな利益成長が期待される業界。
A	100%以上～200%未満	<b>営業利益が100%以上増加する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）が今後成長する市場に属しており、業界関連製品（又はサービス）の成長により、利益成長が期待される業界。
B+	0%以上～100%未満	<b>大きな方向感はないがややポジティブ</b> 業界関連製品（又はサービス）のうちいくつかは今後成長する市場に属しているが、将来の利益成長に大きな方向感は見られない業界。
B-	-100%以上～0%未満	<b>大きな方向感はないがややネガティブ</b> 業界関連製品（又はサービス）のうちいくつかは今後衰退する市場に属しているが、将来の利益減少に大きな方向感は見られない業界。
C	-200%以上～-100%未満	<b>営業利益が100%以上減少する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）が今後衰退する市場に属しており、業界関連製品（又はサービス）の売上減少により、利益減少リスクがある業界。
C-	-300%以上～-200%未満	<b>営業利益が200%以上減少する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）が今後大幅に衰退する市場に属しており、業界関連製品（又はサービス）の大幅な売上減少により、大きな利益減少リスクがある業界。
D	-400%以上～-300%未満	<b>営業利益が300%以上減少する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）の多くが今後大幅に衰退する市場に属しており、多くの業界関連製品（又はサービス）の大幅な売上減少により、非常に大きな利益減少リスクがある業界。
D-	-400%未満	<b>営業利益が400%以上減少する可能性が高い</b> 業界関連製品（又はサービス）ほとんど全てが今後大幅に衰退する市場に属しており、あらゆる業界関連製品（又はサービス）の大幅な売上減少により、非常に大きな利益減少リスクがある業界。

# 各ページの見方について

## 今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）ページについて

### 表の項目について

#### 『今後成長/衰退する製品・サービス』

『今後成長/衰退する製品・サービス（上位8個）』はその業界マーケットシェア上位15社において5年程度の将来で製品・サービスごとに業績インパクトを算出し、その中央値の大きさ順に上位8個を選定し、分析結果を表示しております。

#### 『売上依存度』

『売上依存度』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、業界所属企業各社の製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果の中央値を、xenoBrain独自の指標として表示しております。

#### 『業績インパクト（営業利益予測成長率）』

業績へのインパクトは、売上依存度×製品・サービス市場成長性スコアで計算し、その製品・サービスが将来その業界にもたらすと予測する業績へのインパクトを示します。また、製品・サービス市場成長性スコアは、その製品・サービス市場が市場環境の変化により、今後5年程度でどのように成長/衰退するかを表したxenoBrain独自のスコアです。

#### 『影響経路』

『影響経路』は、今後成長/衰退する製品・サービスに影響する全経路のうち、最も業績インパクトが大きいシナリオ上位3つについて表示しております。

#### 『主な影響企業』

『主な影響企業』は、その製品・サービスが、どの企業で取扱われているかを表します。

## 今後生じる重要な市場環境の変化ページについて

### 表の項目について

#### 『カテゴリー』

『カテゴリー』はxenodatalab.アナリストチームが中長期的に影響すると予測されたシナリオを分類することを目的として、調査・分類した、xenoBrain独自の分類となります。

#### 『カテゴリー毎の営業利益予測成長率』

業界所属企業への業績インパクトのうち、カテゴリー毎に分類された中長期シナリオのみを集計した業績インパクト（営業利益予測成長率）になります。

#### 『サブカテゴリー』

『サブカテゴリー』はxenodatalab.アナリストチームが中長期的に影響すると予測されたシナリオを分類したカテゴリーを、さらに分類することを目的として、調査・分類した、xenoBrain独自の分類となります。

#### 『サブカテゴリー毎の営業利益予測成長率』

業界所属企業への業績インパクトのうち、サブカテゴリー毎に分類された中長期シナリオのみを集計した業績インパクト（営業利益予測成長率）になります。

#### 『主要影響経路』

『主要影響経路』は、該当するサブカテゴリーに分類された中長期シナリオの中で、業績インパクト（営業利益予測成長率）が絶対値ベースで最も大きい中長期シナリオを表示しております。

# 各ページの見方について

## 業界プレイヤーのポジショニングページ（主要製品・サービス市場での比較）

### 表の項目について

#### 『国内マーケットシェア』

『国内マーケットシェア』は国内製品・サービス売上高を業界所属企業全社について合計し、その合計額と各社の国内製品・サービス売上高の比率により計算しております。

#### A『国内製品・サービス売上高』

『国内製品・サービス売上高』（レポート上は『国内自動車売上高』等、製品・サービス名称を代入）はxenoBrain上でその業界に所属すると推定された企業におけるその業界主要製品・サービスの売上依存度に売上高合計を掛け合わせ、さらに、その企業の推定国内売上高構成比率を掛け合わせた金額で計算しております。業界主要製品とは、自動車メーカーであれば自動車のように、その業界を構成するにあたり主要製品として扱った製品・サービスです。

#### B『売上高』

『売上高』は上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。

#### C『売上依存度』

『売上依存度』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、製品・サービス別売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標である売上依存度を表示しております。

#### C『国内売上高構成比率』

『国内売上高構成比率』は、TDB信用調査レポートや開示資料の文章、セグメント構成比率等を独自のアルゴリズムで解析し、エリア別の売上高構成比率を推定した結果を、xenoBrain独自の指標として表示しております。

## 業界プレイヤーのポジショニングページ（グループ全体での比較）

個別の製品・サービスのマーケットシェアで比較するよりも、グループ企業全体で比較することが有用と判断された業界（主に多角化している企業やホールディングス等）については、左記の主要製品・サービス市場での比較と異なり、グループ企業全体の売上高で比較を行っております。その場合の表の補足説明を以下に記載致します。

### 表の項目について

#### 『マーケットシェア』

『マーケットシェア』は業界所属企業全社について売上高を合計し、その合計額と各社の売上高の比率により計算しております。

#### A『売上高』

『売上高』は上場企業で連結財務諸表を開示している場合は連結売上高、それ以外はすべて単体の売上高で計算しています。



## 免責事項

---

- ・本資料で提供している情報は、株式会社xenodata lab.（以下『当社』とする）が開発・運営するSaaS型AIサービス『xenoBrain』を通じて情報を抽出し、当社アナリストが加工したものであり、また『xenoBrain』は信頼できると考えるベンダーからの一次情報及び当社アナリストによるリサーチを当社独自のアルゴリズムを通じて自動で出力されるシステムです。
- ・当社及び当社アナリストは、情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任、または義務を負わないものとします。
- ・本資料は情報の提供を目的としており、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨、相場動向等の保証等を行うものではありません。また、将来の運用成果等を保証するものではありません。
- ・見解や評価は記載時点での判断であり、予告なしに変更されることがあります。
- ・当社は、本資料を利用したこと、または本サービスに依拠したことによる結果のいかなるものについても一切責任を負わないと共に、本資料を直接・間接的に受領するいかなる利用者に対しても法的責任を負うものではありません。また、これらの情報を営業に利用すること、第三者へ提供する目的で情報を加工、再利用および再配信した場合においても、万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねます。